

金七千兩

御作事方

金六千兩

御疊方并備後表
御買上代共

金壹萬兩

小普請方

金千五百兩

御材木方

金五千兩

御細工所

先達而被仰出も有之候通、御勝手向不取、諸向も相ゆるみ候故、御入用も相増、御遣方御不足ニ相成候、依之當亥年より來々、丑年迄三ケ年、右金高ニ而壹ケ年之御用相濟候様致、勘定取計可被申候、委細之儀ハ、御勘定奉行可被談候、
右之通向々、江申渡候間、被得其意可被談候、

四月

腰懸補理料

〔吏徴別録^{上衣以上}〕御勘定奉行

寶曆八年^{戊寅}十一月廿四日、公事方ハ腰懸補理料として、闕所金之内を以、金七十兩可被下旨被

定、

差掛料

〔寶曆集成絲綸錄^{二十四}〕寛延三年八月

御勘定奉行^江

遠國へ罷越候面々、只今迄差掛料被下候得共、向後相止候間、可被得其意候、乍然差掛無之候而ハ、難成場所ハ、吟味之上、公儀御入用ニ而、申付候様可被心得候、

四季施

〔吏徴^{御上}目見以上〕御同朋頭三人

御四季施、正月小袖一、上下、代金一兩二朱、四月拾一、上下、代金同斷、五月帷子三、單物一、上下、代金同斷、九月小袖貳、上下、代金同斷、十二月裝束一通、小袖二、上下二具^{長半}、同代金同斷^略○中